横 浜 市 記 者 発 表 資 料

令 和 3 年 4 月 28 日
環境創造局環境科学研究所

きれいになった川で外来種が増加！？

～第 15 回市内河川生物調査結果報告～

横浜市は、市内を流れる河川のうち６水系について、昭和 48 年(1973 年)から約３年に１度の頻度で魚類、底生動物、水草、付着藻類についての調査を実施し、生き物から河川の水質評価をしています。

今回は第 15 回目の調査となります。過去の調査結果と比べると、河川の水質向上に伴って、確認される生物の種数は増加していますが、その一方で、出現する外来種の種数も年々増え続けています。

1　調査内容

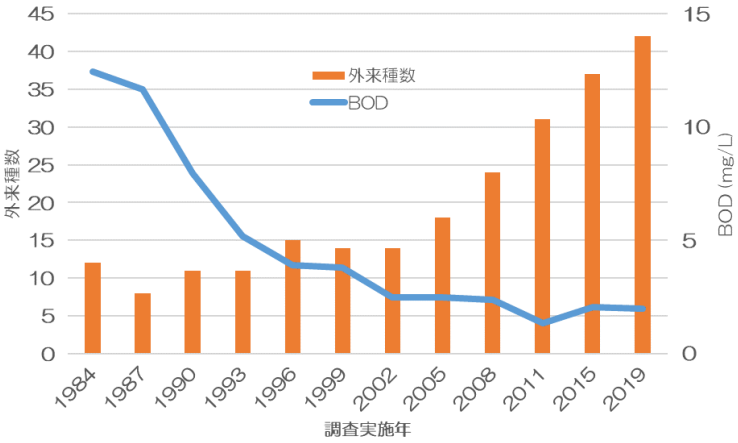
調査地点	６水系（鶴見川、帷子川、大岡川、境川、宮川、侍従川）における計 41 地点
調査期間	冬季（平成 30 年 12 月～令和元年２月）、夏季（令和元年８月～10 月）
調査対象	魚類、底生動物（甲殻類、昆虫類など）、水草（抽水植物を含む）、付着藻類

2　調査結果概要

（１）河川における外来種の増加

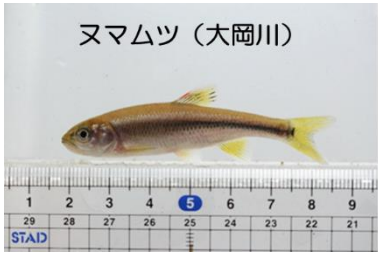
下水道の整備等により、市内河川の水質は向上し、それに伴って、川で確認される生物の種数は年々増加しています。一方、水質が改善した 1990 年代以降、外来種の種数も増加し続けています（右図を参照）。今回の調査で出現した外来種は 52 種（魚類 22 種、底生動物 20 種、水草 10 種）でした。特に魚類については、確認された種の約３割が外来種という結果でした。

外来種の中には、オオクチバスやブルーギルのような、外国から侵入した種だけでなく、日本国内の他地域から持ち込まれた「国内外来種」が多数含まれています。今回確認された魚類の外来種 22 種のうち、半分以上が「国内外来種」でした。今回の調査でも、新たに西日本の魚であるヌマムツやムギツクが見つかっています。新しい外来種の侵入が続く中、市内の生態系を保全するために、引き続き外来種の動向を監視する必要があります。



外来種数および平均 BOD※の変化

※河川中の有機物量を示す数値。汚濁の指標になる。



裏面あり

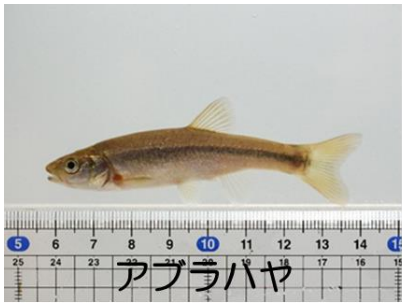
（2）確認された水生生物

今回の調査では、魚類 58 種、底生動物 209 種、水草 28 種、付着藻類 215 種の合計 510 種が確認されました。第 14 回調査（平成 26～27 年）の 439 種と比較して種数が増加しています。

確認された 510 種のうち、レッドリスト等掲載種[注)] は 38 種でした。その中には、アブラハヤやハグロトンボなど、一時は絶滅を危ぶまれる状態から、個体数を大きく回復した種も含まれており、今後も個体数の増減に注意する必要があります。

水生生物	種数	レッドリスト等掲載種	外来種（品種を含む）
魚類	58 種	ホトケドジョウ、アブラハヤ等 21 種	カダヤシ、オオクチバスなど 22 種
底生動物	209 種	ハグロトンボ、コシボソヤンマ等 9 種	アメリカザリガニ、カワリヌマエビ属など 20 種
水草	28 種	ミズキンバイ、タコノアシの 2 種	オランダガラシ、オオカワヂシャなど 10 種
付着藻類	215 種	オオイシソウ、タンスイベニマダラなど 6 種	―

注）絶滅の恐れがある野生生物のこと。環境省レッドリスト 2019 あるいは神奈川県レッドデータブック 2006 を参考とした。

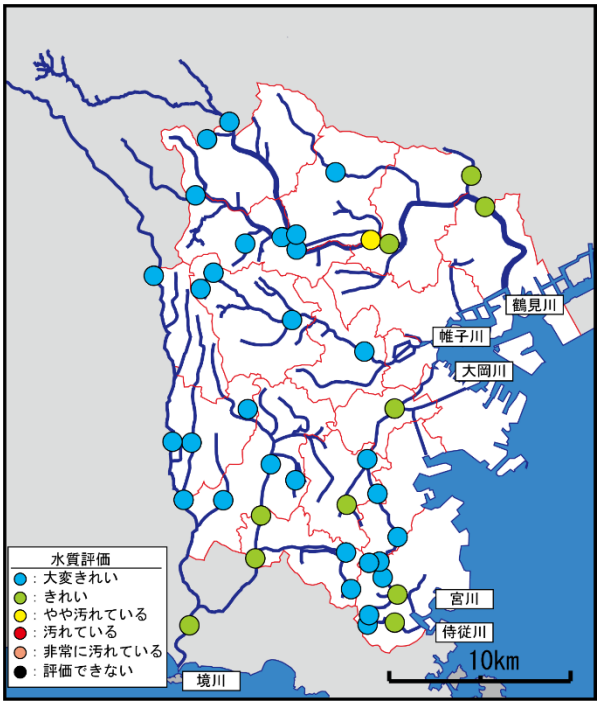


（3）生き物による河川の水質評価

横浜市は、河川の「水質を評価するものさし」として生物指標を定めています。生物指標を用いて水質評価を行うと、全 41 地点のうち、40 地点で「きれい」以上の評価となりました。

横浜市環境管理計画では、「横浜市水と緑の基本計画」に基づき、水域ごとの水質達成目標を定めています。今回の調査では、夏冬の結果を合わせたとき、水域区分が定められている 38 地点のうち、92%に相当する 35 地点で水質目標を達成しました。

水質評価	地点数
大変きれい	30 地点
きれい	10 地点
やや汚れている	1 地点
汚れている	0 地点



生物指標による水質評価結果

詳細な結果は、環境科学研究所のホームページに掲載しております。

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/shiryo/kawatoumi/

お問合せ先
環境創造局環境科学研究所長　　百瀬　英雄　　Tel 045-453-2550